

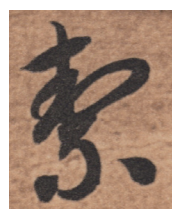
女は正しく清きを慕い、



おんな



てい



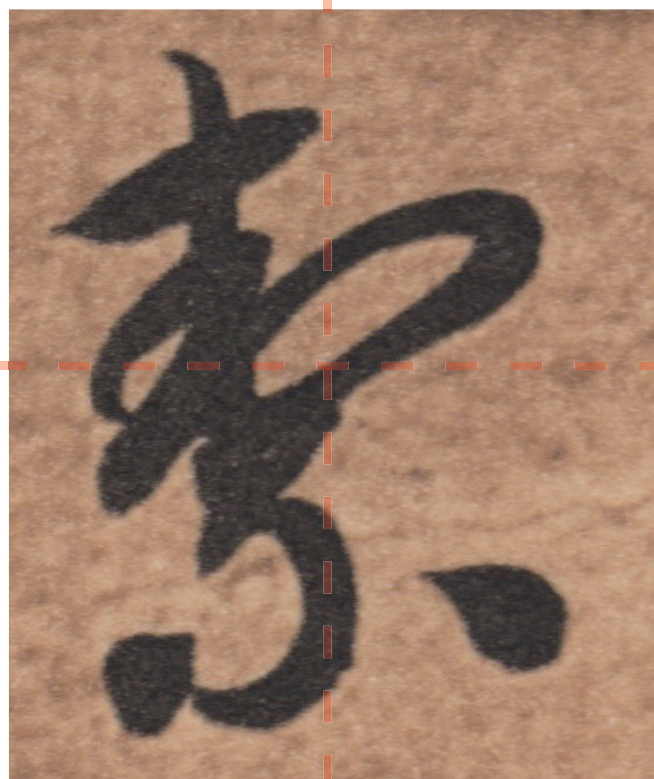
けつ



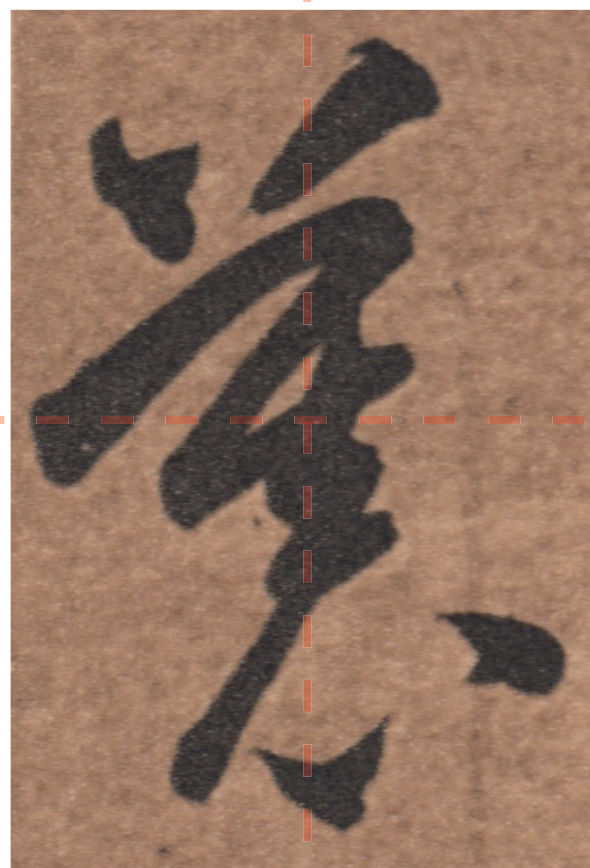
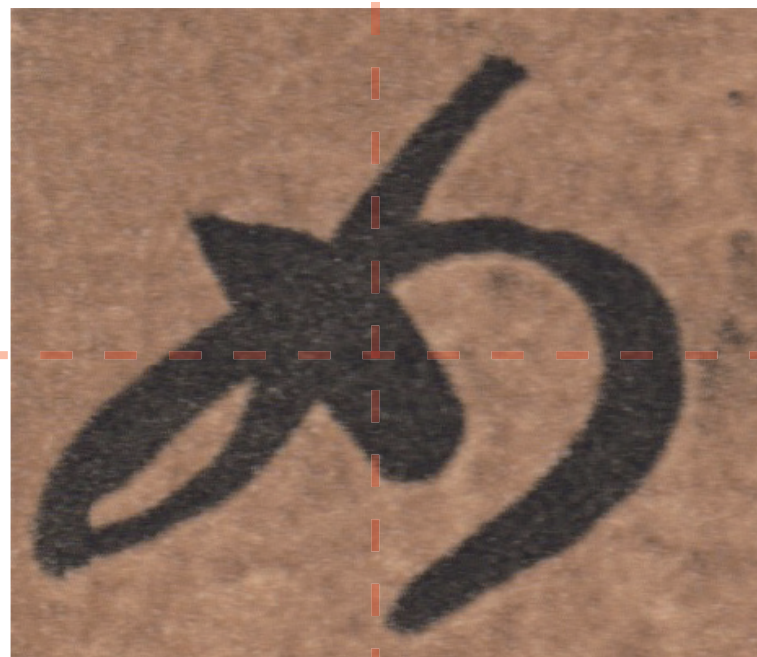
した



ひ、



庚



男は、はたらきのある人のようになろうとする。

男

おとこ

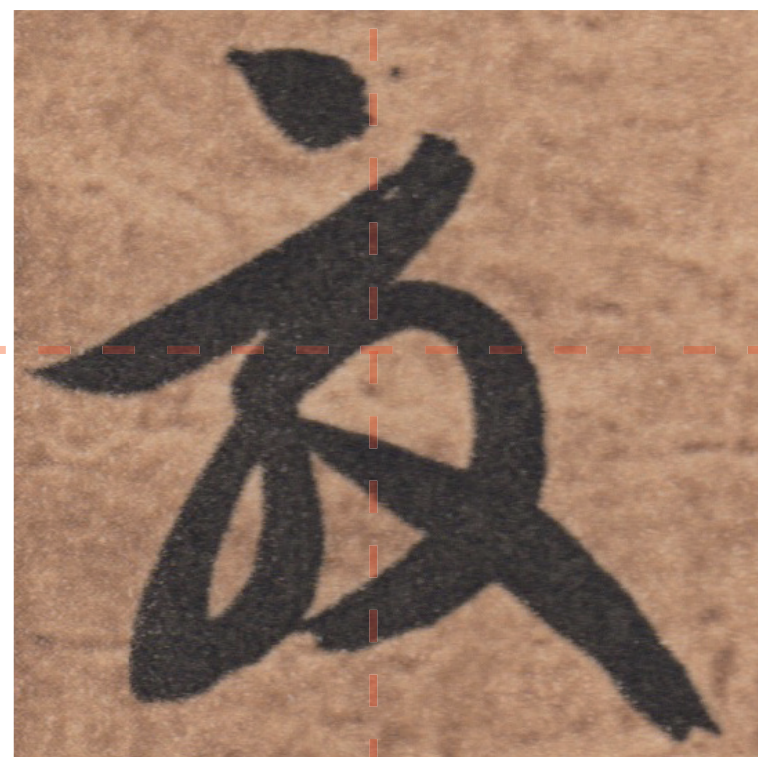
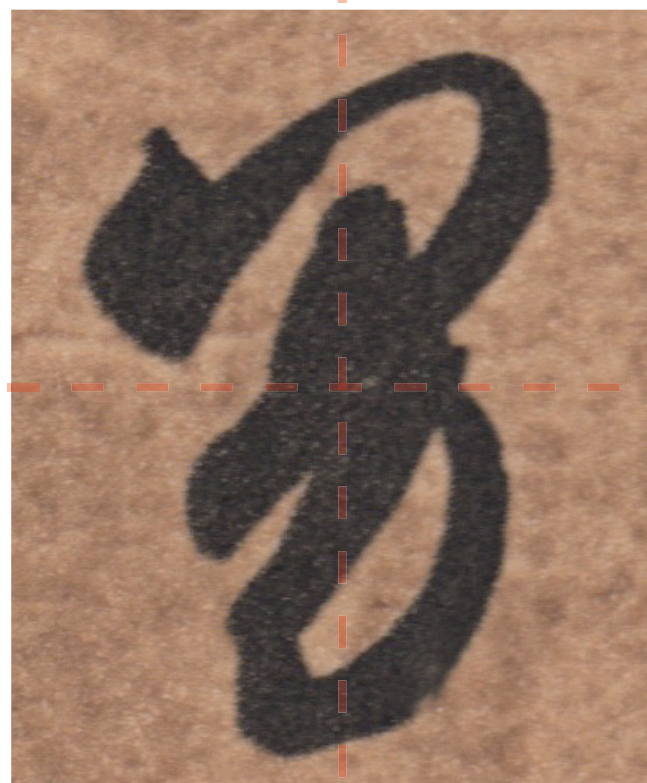
はたらき

さいりょう

を

なら

ふ。



灰

覃

陽

●



あやまち



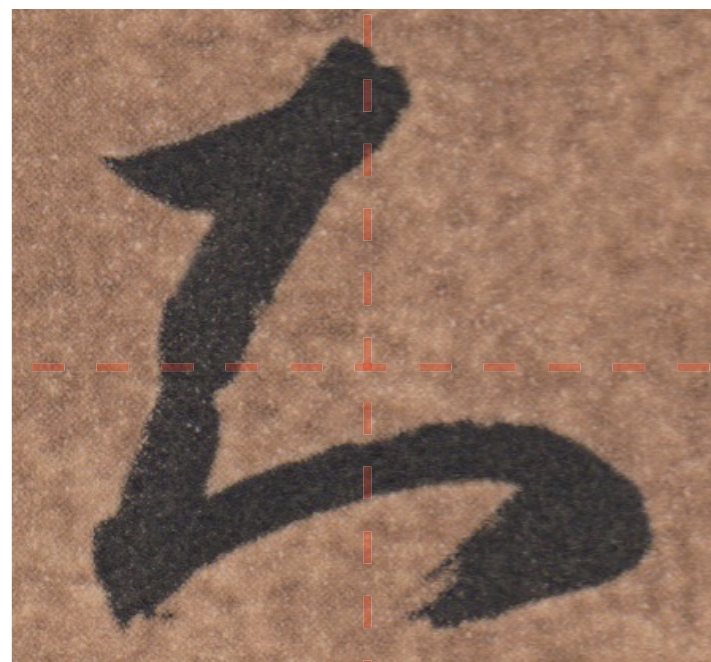
し



かなら



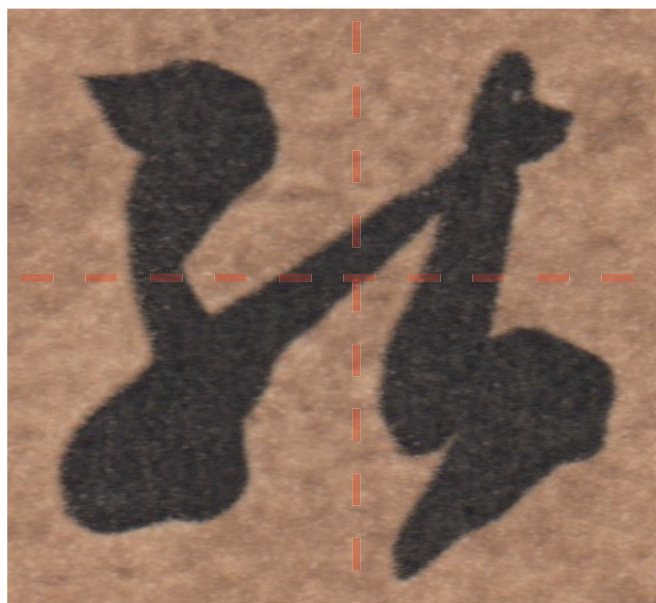
あらた



支

歌

己の過失に気付いたら必ず改め、



※能と同字



のう



え



わす



なか



るること

れ。

修め得た教養や習得したことは忘れないようにすること。

波

か

の
垣

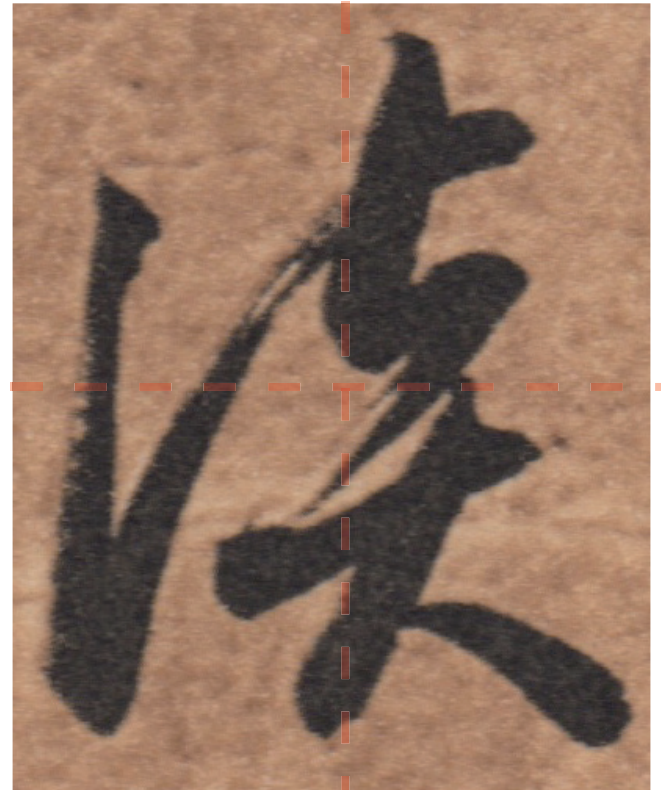
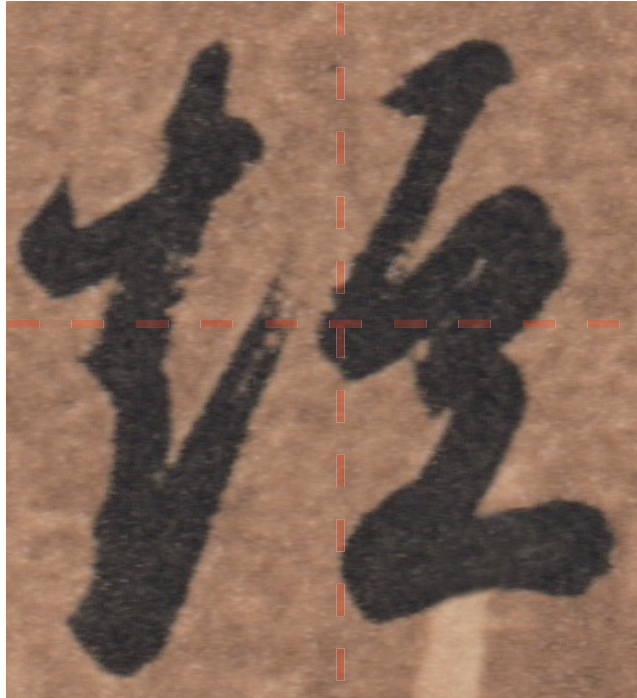
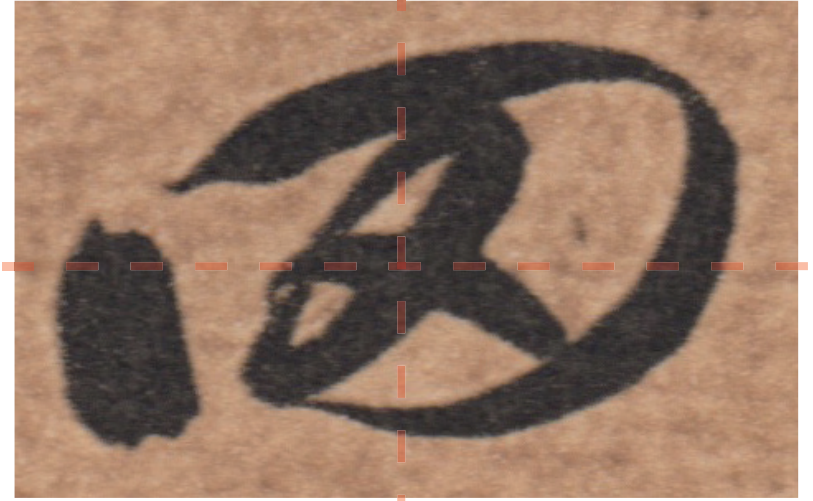
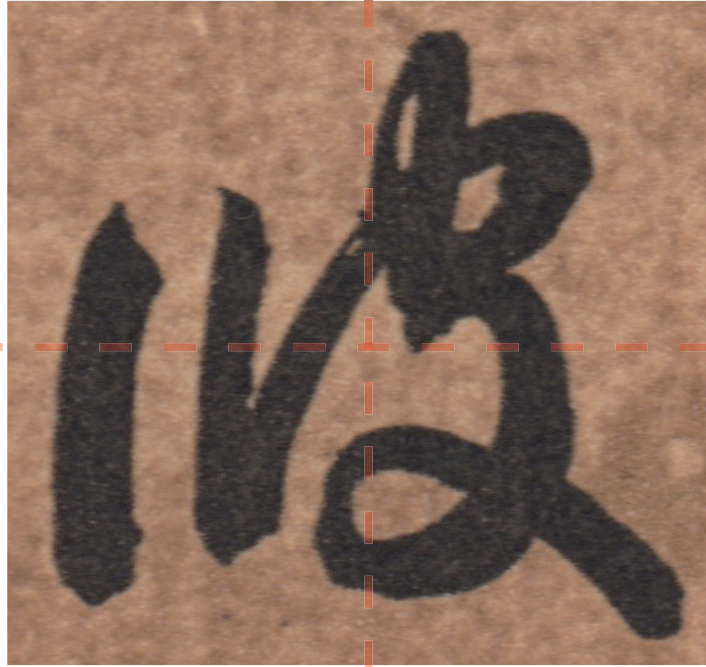
たん

を
淡

だん

ずる
四
れ、

なか



他人の欠点を語ってはならない、

自分の長所に奢り高ぶってはならない。



おの

が



ちよう

を



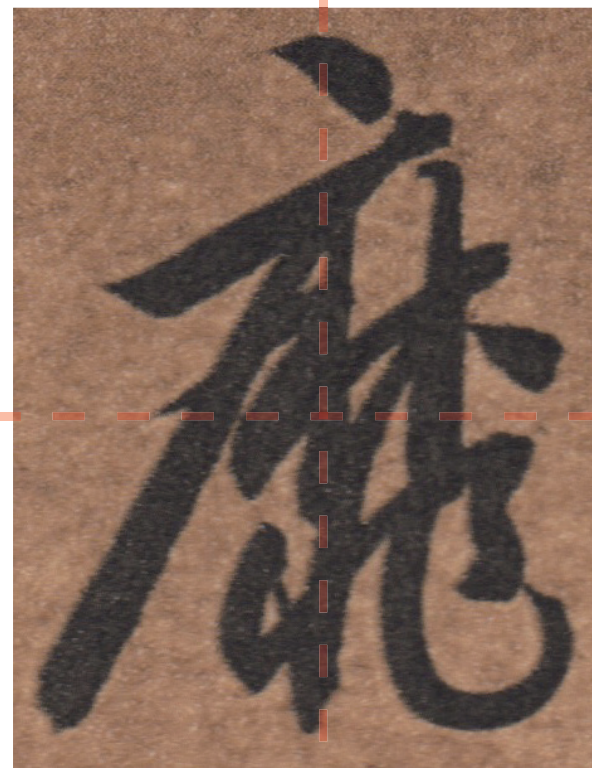
たの

む



なか

れ。



●

支

陽

歌

約束ごとは必ず守り、

信

しん

は

覆

ふ

む

可

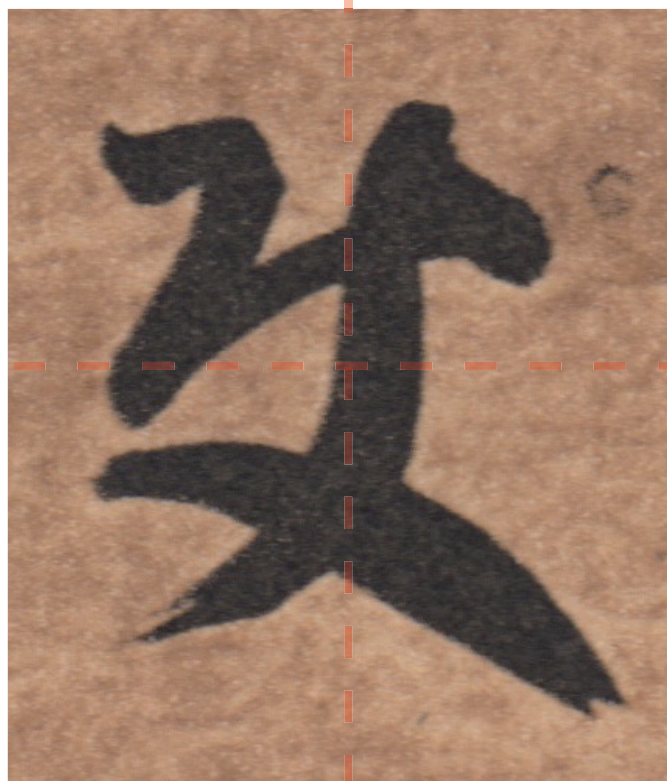
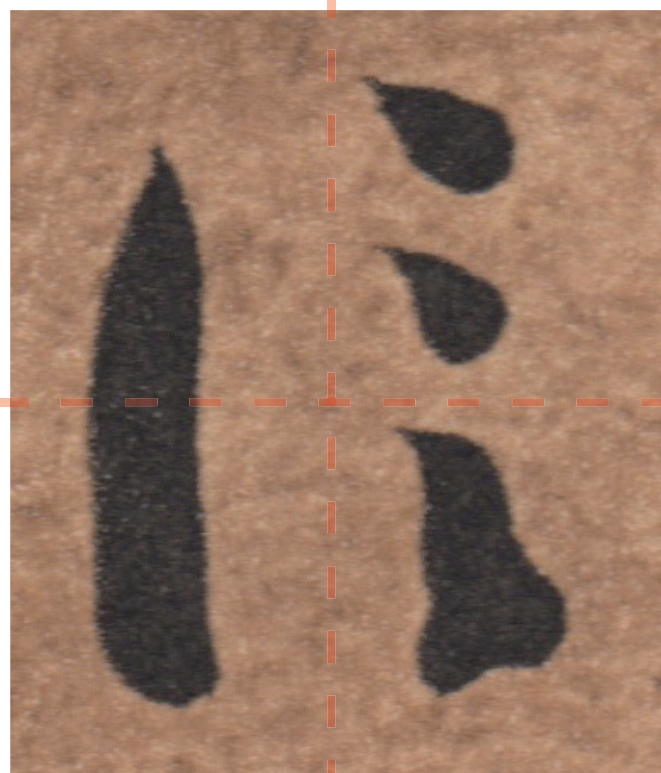
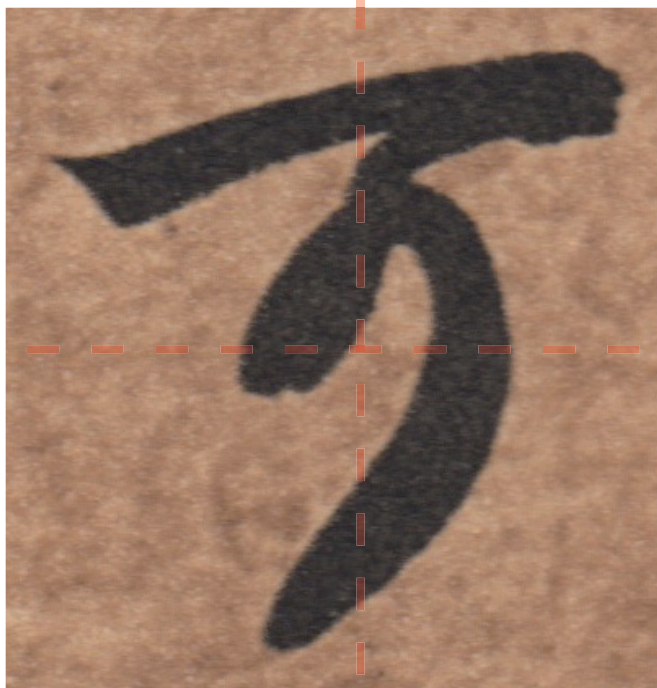
へ

から

父

し

め、





き

は



はか

り



がた

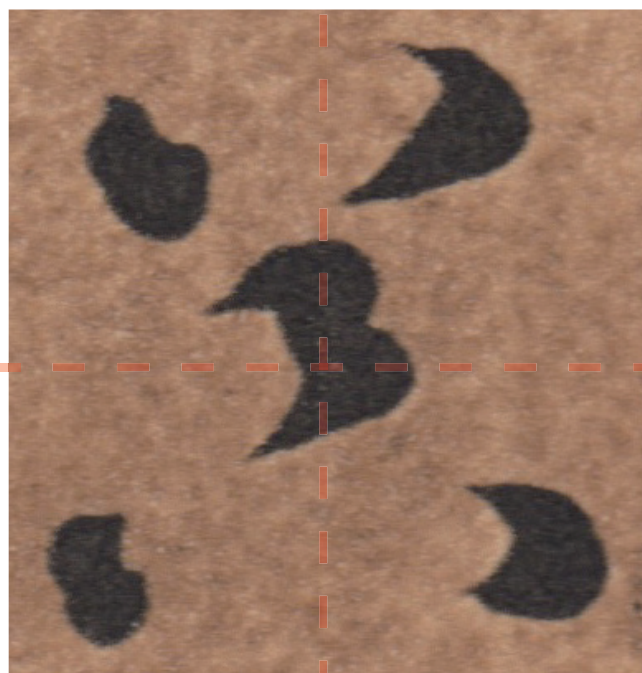
からんことを



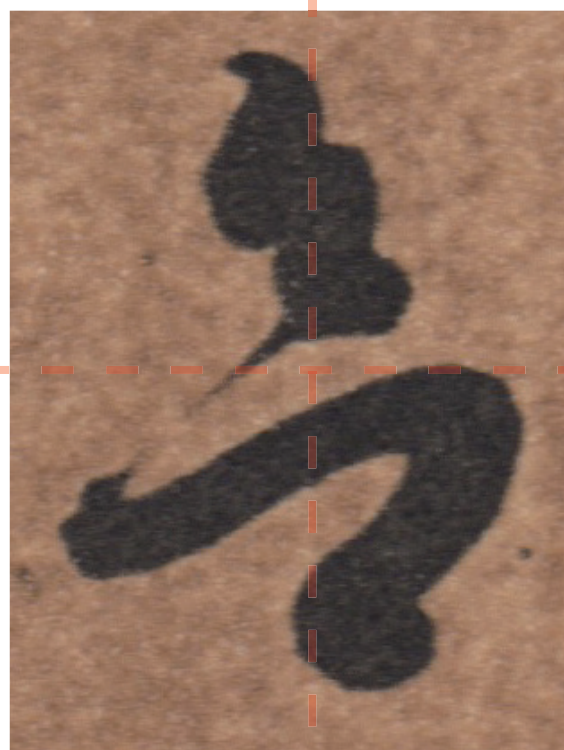
ほっ

す。

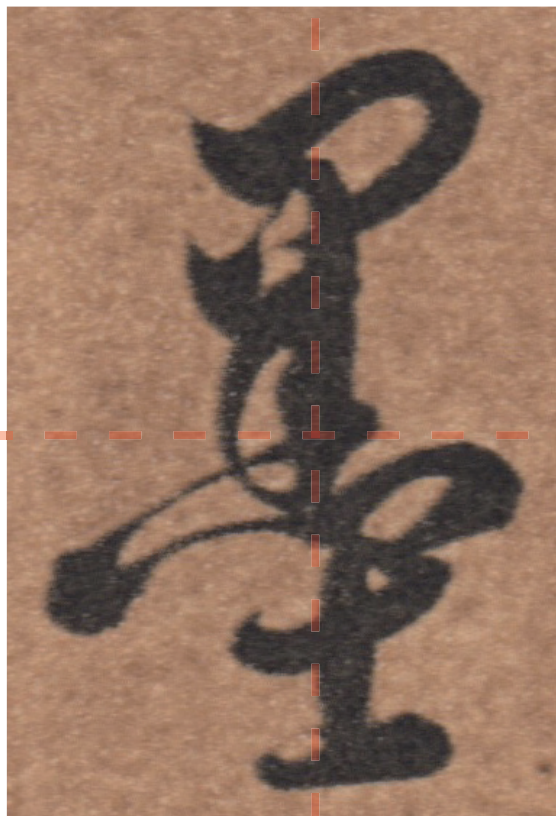
己の器量は他人に量り難いようにしておく。



寒



陽



※糸と同字

※淬と同字

※染字を淬としたのは他に例を見ない。
また染と淬では韻も違う。
ただし淬には染まるという意味もある。

ぼく



いと



そ



かな



墨は糸に染まりやすいように、
(人の心も悪に染まりやすいことを憂いた)

は

の



まるを

しみ、

詩

し

には羔羊

こうよう

を漢

さん

せり。

詩

羊

詩

漢

豪

支

陽

●

詩経は官吏も質素な子羊の皮衣を着たと讃えた。